

# 学内共同教育研究施設等



## ●産学連携推進機構

### 【目的等】

大学の優れた研究成果を切れ目なく実用化につなぎ、イノベーション創出や社会への成果還元に資するため、学内外に向けた産学連携の総合支援窓口としてのワンストップサービスにつとめています。

産学連携・共同研究部門と知的財産部門があり、両部門の共同で、研究シーズの発掘・顕在化から産業界等との共同研究・受託研究および研究成果の技術移転まで社会と連携した活動を推進しております。

これらの活動を円滑に進めるため、科学技術相談、技術セミナー開催、研究シーズと地域ニーズとのマッチング活動、知的財産権保護等の産学連携活動をしています。



## ●総合情報処理センター

### 【目的等】

261台のネットワークブート型のシンクライアント端末、大規模計算用としての高速演算サーバおよびキャンパスネットワークシステムを運用しています。教職員、大学院生、学部生など誰でも利用ができ、教育、研究等に活用されています。高度化・多様化する情報教育の要求に応えるべく、教育、研究、各種業務ならびに地域への支援を行っています。



## ●放射性同位元素センター

### 【目的等】

放射性同位元素は、正しく取り扱えば化学的反応メカニズムなどを解明する上で極めて強力なツールとなります。本センターは、放射性同位元素を使用した研究・教育に対する支援および放射線取扱業務に関する安全管理を目的として運営されています。化学実験室、 $-10^{\circ}\text{C}$ および $4^{\circ}\text{C}$ 低音実験室、放射能測定室、精密機器測定室、中性子照射室、R1貯蔵室などからなり、より高度な研究環境を提供しています。



## ●環境安全センター

### 【目的等】

教育研究および診療に伴い生じる有害物質を含んだ廃液等の処理を行い環境保全に資するため、有害廃液等を無機系廃液、有機系廃液および有害固形廃棄物に区分し、分別収集により、これらの適性処理・処分を行っています。多種・多様な性状を有する廃液等は研究機関特有であるため、処理技術の検討・改善を行い適正処理に努めています。また、学内外において環境科学等に係る教育・実習および共同研究を実施しています。



### ●ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

#### 【目的等】

現在、IT産業やナノテクノロジーでは、高度な機能性を持つ希少元素が必要不可欠な素材として使用されることから、その資源枯渇の危機が叫ばれています。ラボラトリーでは、平成13年5月に研究棟が完成して以来、「希少元素物質に注目した新リサイクル技術の開発と高度素材設計に関する研究」をプロジェクト課題として、ベンチャー・マインドをもつ創造的な大学院学生、若手研究者の育成を視野にいたれた全学的な教育・研究活動を進めており、新産業の創出を目指しています。



### ●バイオサイエンス教育・研究センター

#### 【目的等】

これまであった医学部附属動物実験施設・医学部附属実験実習機器センター・医学部R1センターの3つの共同教育研究施設を統合して、大学のみならず地域の研究施設や医療施設、企業の研究者も効率的に利用できる学内共同教育研究施設として平成16年度に設置されました。

ライフサイエンス研究のための最新解析機器の提供、バイオ関連実験サービスの提供、実験動物の適切な管理、放射性同位元素を用いた実験環境の提供などのサービス業務を行っているほか、学内のバイオ関連研究の適正審査、福祉・医療技術の開発・応用研究、新規実験動物の作成・開発研究などの研究活動も同時に展開しています。



### ●戸賀臨海実習所

#### 【目的等】

学芸学部(現教育文化学部)創立90周年並びに手形地区統合記念事業として、卒業生、教職員等の協力で昭和39年12月に男鹿半島戸賀湾の一角に建設された施設で、研修室や50人収容の宿泊室などを整備し、男鹿半島の自然、地質、生物、人文科学等の調査の基地として活用できるだけでなく、学生の研修および課外活動並びに職員の研修および福利厚生に資することを目的としています。



### ●乳頭ロッジ

#### 【目的等】

本学学生の研修・課外活動、職員の研修および福利厚生施設として、平成8年11月に設置された施設です。同施設は、十和田八幡平国立公園の南部、乳頭温泉郷(秘湯全国の温泉100選)の一角にあり、周辺は高山植物の宝庫といわれる秋田駒ヶ岳、深度日本一の田沢湖など、また乳頭キャンプ場、たざわ湖スキー場など豊かな自然環境に恵まれ、四季を通じて多様な活動が可能なおとこです。